

第1回 京橋駅周辺地域部会 会議要旨

■日 時：令和6年1月24日（水） 午後3時から午後5時まで

■場 所：大阪市役所 屋上階（P1）会議室

■出席者：別添の「出席者一覧」のとおり

■次 第：1. 開会

・開会のあいさつ

2. 議題

1) 部会長指名

2) 京橋駅周辺地域部会の設置と今後のスケジュール

3) 京橋駅周辺の動向とまちの将来像について

3. まちづくりの取組について

・イオンモール株の取組について

4. ゲストスピーカー

・（公財）関西文化学術研究都市推進機構の取組について

5. 意見交換

6. 閉会

■要 旨

1. 開会

事務局

- ・初めに、本部会の親会議にあたる大阪城公園周辺地域都市再生緊急整備協議会会議の議長であります、大阪市の寺本計画調整局長よりご挨拶をいただきたいと存じます。

大阪城公園周辺地域都市再生緊急整備協議会会議議長：寺本 大阪市計画調整局長

- ・本市では大阪の成長の核となる拠点の創出に注力をしており、これまでのキタ、ミナミに、ヒガシ、ニシを加えて、活気にあふれる魅力あるまちづくりを今後とも進めていきたいと考えています。
- ・その中で、ヒガシの拠点として、京橋駅周辺のまちづくりが動き出します。京橋駅周辺地域は、平成29年に国から都市再生緊急整備地域に指定していただき、その後、本日お集まりの皆様を中心に、まちづくりに向けた検討が進められてきたと認識しております。民間開発の機運も高まっており、また官民連携のもとで、この機を逃さずに、効果的な都市基盤の整備や国際競争力を高めるための都市機能の集積を図っていくことが重要ではないかと考えているところです。
- ・この京橋駅周辺については、鉄道が3駅4路線集積しているところで、大阪第4のターミナルですが、どうしても梅田、難波、天王寺・阿倍野と比べると、少しイメージが薄いかと思っております。ただ、大阪有数の繁華街も近くに立地しており、近隣には大阪

城公園、大阪ビジネスパークなど、それぞれ大阪を代表する観光地、あるいはビジネスの拠点というのが位置している場所であり、非常にポテンシャルの高いエリアだと考えております。こうした、京橋駅周辺のさらなる発展を目指していきたいと思っておりますので、今後、この部会にて活発にご議論いただきまして、京橋駅周辺のまちづくり方針というのを打ち出していきたいと思っております。

- ・ お集まりいただきました構成員の皆様には、貴重なご意見をいただきながら、活発なご議論となるようお願いしたいと思います。

2. 議題

1) 部会長指名

事務局

- ・ 大阪城公園周辺地域都市再生緊急整備協議会規約第12条第3項では、部会に部会長を置き、部会の構成員の互選により選任するとあります。自薦他薦ございませんでしょうか。

上溝 大阪都市計画局計画推進室長

- ・ 京橋駅周辺まちづくりにこれまでも携わってこられており、さらには大阪ビジネスパーク駅周辺地域部会においても部会長をされている、大阪市計画調整局の西江部長にお願いしてはどうかと思っておりますがいかがでしょうか。

事務局

- ・ ただいま大阪都市計画局の上溝室長より計画調整局の西江部長にというご提案をいただきましたが、いかがでしょうか。

一同

- ・ 異議なし

2. 議題

2) 京橋駅周辺地域部会の設置と今後のスケジュール

3) 京橋駅周辺の動向とまちの将来像について

事務局

- ・ 資料説明

資料1 京橋駅周辺地域部会の設置と今後のスケジュール

資料2 京橋駅周辺の動向とまちの将来像について

部会長：西江 大阪市計画調整局開発調整部長

- ・ ご説明内容に対してご意見ご質問などございませんでしょうか。

一同

- ・ 意見なし

3. まちづくりの取組について

イオンモール(株)の取組について

森 イオンモール株式会社 (随行者)

- ・ 資料説明

部会長：西江 大阪市計画調整局開発調整部長

- ・ ご説明内容に対してご意見ご質問などございませんでしょうか。

一同

- ・ 意見なし

4. ゲストスピーカー

- ・ (公財)関西文化学術研究都市推進機構の取組について

河合 (公財)関西文化学術研究都市推進機構 常務理事

- ・ 資料説明

部会長：西江 大阪市計画調整局開発調整部長

- ・ ご説明内容に対してご意見ご質問などございませんでしょうか。

一同

- ・ 意見なし

5. 意見交換

部会長：西江 大阪市計画調整局開発調整部長

- ・ それでは、本日全体の内容を通じまして、皆様に、順にご意見、ご質問を伺って参りたいと思います。

嘉名 大阪公立大学大学院工学研究科教授

- ・ 前提条件として周辺エリアと一体的に考えないといけないという一般的な都市再生緊急整備地域の中でも特殊な考え方をするという側面があることを念頭に置きながら考えていただいているかと思いますが、さらに加えるとすれば、もう少し周辺の機能更新に資するようなまちづくりがあってもいいかと思います。このエリアは官公庁、それから移転されたがNTT西日本本社等、大阪の中核的な機能を多く持っていますがこれが老朽化し更新していかないといけない。一方で、例えばOBPも新しく建物を建てる敷地がない状態になっており、エリア全体でもう少し機能更新を図っていき、次世代にふさわしい、中核的な機能をどうやって担っていくのかというストーリーもあるかと思いました。
- ・ それから京橋は大阪府市のターミナル駅でもあり、コネクティブというのがキーワードですが、滞在時間をどうやって伸ばしていくのかという視点も必要かと思いました。
- ・ 京橋はインフラも錯綜しており、まずインフラをちゃんとするということが、そもそも都市再生上も重要だということは十分認識しており、それをしっかり伸ばしていくという方向性を考える必要があるかと思っています。単にインフラを充実させればいいというレベルの話ではないのかと思います。単にデッキを通す、駅と駅をつなぐ、それから隣接する市街地につなげるということでは単にインフラを充実させるということになります。そのできた広場やデッキ等の空間が様々なイノベーションにも繋がってくる新しいインフラの概念みたいなところまで発展させていくような視点が必要になるとか思います。実際、うめきた2期は公園がそういう機能を果たそうというようなこともあると思うので、京橋版のそういうインフラの概念を確立させていくという視点が必要だと思っています。
- ・ それから、民間のまちづくりもまだまだこれからだと思っていますが、もう少し導入機能の詰めというのか、OBPや大阪公立大学についても資料に多く記載いただき大変期待をいただきありがたいですが、他にもっと色々な機能があるといいよね、その中で京橋が担うべき役割はこうですよねというようなことがもうちょっとクリアに出てくる必要があるかと思っています。それはおそらく民間企業がこれから考えられるまちづくりと大きく連動してくるし、そこをしっかりと詰めていくことが重要ではないかと思いました。
- ・ それから、最近ヨーロッパへ行くことが何度かあり、その中で痛感したのは、低炭素や、カーボンニュートラルのまちづくりということです。おそらく環境、防災の話は、今後議論が詰まっていく中でしっかり位置付けられていくとは思いますが、やはり低炭素まちづくりや、カーボンニュートラル等、最先端のまちづくりモデルを作っていくんだということを要望すべきではないかと思っています。なぜならここは真ん中に大阪城公園があり、それから大川や寝屋川、第二寝屋川もあるということから、ブルー&グリーンの

ネットワークみたいなものが実は骨格にあるということもありますので、環境等の視点もキーワードとしてもいいのかなと思いました。

- それと、エリアマネジメントも OBP さんが熱心にされていますけど、そういうのをより発展させていくことが、おそらくイノベーションということもかなり深まっていくのかなと、そういったところがポイントになりそうだと思います。

野澤 明治大学政治経済学部教授

- 最初に 13 ページ目のコネクティブシティ京橋というコンセプトの上に、何かと何かをつなぐ、地区をつなぐことで国際競争力の強化に資する東の拠点へと書いてありますが、全体的にもそうですが、どのような国際競争力の強化に資するのかというところがすっぱり抜けているので、コネクティブやつなぐ等いろいろ書かれてはいますが、具体性に欠けていると言うのか、どういう国際競争力の強化に資する拠点を作りたいのかというのがもう少し必要というのが 1 点目です。
- その中で、せっかく大阪市はスーパーシティに選ばれているので、例えば外国人起業家に対して外国人企業活動促進事業等もスタートされていますし、例えば外国人起業家がこの京橋に集ってくるような、その仕掛けになるような整備ってなんだろうというところを、今後、動く民間の再開発事業の中にどう入れ込めるかということが肝になるのかと思います。先ほど嘉名先生もおっしゃったように、民間企業の方々がここでは普通の再開発事業ではなくて国際競争力の強化に資するものをどうつくりたいのかという、むしろ民間事業者側の意向というあたりがコンセプトの具体化には必要だと思います。
- 3 点目に、例えば海外の起業家を呼んでくるというような話のときに、東京ですと日本橋の三井の新規ビルにはアメリカンクラブの分館ができたり、例えば森ビルにはアークヒルズクラブが入ったりしていて、一般の人は入れないですけども、国内外のいろんな方が会員の方を通じて交流し、それが国際競争力をささえている場があります。関西にも、そういうところはあると思いますけれども、例えばあえて京橋にそういうものを誘致して、大阪にもそういう色々な起業家も含めた方々が国際的に交流できるようなフロアをこの再開発の中に入れていくことや、活動等がクローズではなくて OBP の方やこのまちに来る方々が色々な方と交流できる或いはエリマネに含んでいきながら交流できるようにしていく等の仕掛けはできると思います。ハイソな人たちがクローズで交流する施設をいれるという意味ではないですが、イノベーションや国際競争力に資するとか書かれているところに、もう少し具体性が必要だと思います。
- 特定都市再生緊急整備地域を目指すのであれば、国際競争力の強化というのは、日本の国際競争力の強化にも資するような形にすべきですし、インフラ整備も含めて、それを提案していかないといけないと思います。京橋を東の拠点にするというのであれば、あえて国際競争力の強化までやらなくてもすばらしいまちづくりができるので、今一度、本当に国際競争力の強化を目指していくのかも含め、しっかり議論をしていく必要があると思います。

吉田 大阪公立大学大学院工学研究科准教授

- ・ 私からは、特に OBP も含めて、NTT西日本のイノベーションに係る取り組み等を、もう少し大きな形で支援していけないか。シーズみたいなものは少しずつできてくるのかと思うが、情報産業にしてもこの空間をどう使ってイノベーションに結びつけていくのかというところは必ずしも十分に展開できてないところだと思います。情報産業は、そのコアなところで世界に情報発信する等イノベーションを起こしていくということはやっていると思いますけれど、それをこの京橋のまちの中でどのように展開するのかというところは、おそらく1企業だけではうまくいかないことが多々あると思います。
- ・ そういったことを、より具体的に展開していくための1つの道具として、例えば、大学の研究機関等がこの京橋に、サテライトを出して、そこを使ってまち全体をデジタル化、もしくはイノベーションを起こしていく、そういう活動を支援していくということも、可能性としてはあると思います。その1つに大阪公立大学の新キャンパスができるということなんですけど、それだけではなくて、東の玄関口と呼ばれる京橋の京阪沿線には企業や大学などもあり、様々な人たちに参加してもらったりする可能性もあるのではないかな。その課題を整理しつつ、行政は何をしていくべきなのか、それから空間側の実験スペースとしての活用の仕方、それを地域の方がどう受け入れていくのかといったところを、支援していただけるといいかと思います。パーツはいくつかそろっていると思いますが、それらをもう少し連携・コネクティブできるようにし、行政も含めて様々な仕組みを使ってパブリックに開いていくという発想をどこかで入れていかないと、1つ1つの企業の活動で終わってしまって、京橋全体としてのコネクティブを引き出せないのではないかと思います。ぜひその部分を具体化していただきたい。
- ・ こういったことをやっていくためには、1企業の活動に頼るのではなくて、様々なプレーヤーが活動できるプラットフォームを作っていくか、うまくいかないか、うまいか、と思います。都市再生緊急整備地域の中でプラットフォームを構築して、新しい都市ビジネス等を情報産業の進化も含めて展開していただきたい。大阪の都市の役割の中で京橋はある程度色がついていると思いますので、その色をさらに強化していくというところを引き出していくためのプラットフォームづくりをぜひ目指していただきたいと思いました。

大浅田 京阪ホールディングス株式会社 執行役員 沿線開発プロジェクト推進室部長

- ・ まちづくりにおいて、商業は1つの機能だと思っております。先ほど嘉名先生からも機能更新のお話がありましたが、やはり切っては切れない関係であり、商業と開発の両方の視点を持つことでより効果的なまちづくりができるのかと考えております。
- ・ 1970年4月に今の京橋駅が開業しましたが、それまでの京橋は本当に何もなくて、京橋駅はグランシャトーの北側に地上の小さい駅としてありました。北側に線路がありまして、JRの鉄橋にも名前が残っておりますが、グランシャトーの北西部の小さい鉄橋の下を電車が走っていました。実はその50年前のまちづくりの時に商業とまちづくりという観点を同時に持ちながら、開発をやっております。日本で最初にモールという言葉の名乗

ったのが、京橋の京阪モールでございます。モールという意味は商業施設というのではなく木陰のある散歩道という意味で、50年前の社内報を探ってみても、実は当時の開発担当の役員や担当者の言葉から、駅に商業施設を作るってことが出てこなかった。駅にまちをつくる、遊歩道のある沿道に路面店等各テナントを配置する、こういうシステムを駅の中に作っていかうという考えで作ったのが今の京阪モールです。さらにはその駅が良くなることで、周辺のまちもまた良くなっていくだろうという観点で、実際OBPもでき上がった。

- 先生方のお話を伺いながら、先ほどご説明のあったコンセプト、まちづくりの方向性の中で京阪が一体、どんな役割を担っていかないといけないのか、今それを考えているところです。沿線を引っ張っていく、或いは沿線から京橋に引っ張ってくる、そういったゲートになるようなものを作っていかなければいけないと考えています。枚方ではハードだけじゃなくて、ソフト面でエリマネの取り組みもしっかりと取り組んでいっています。そういったハード・ソフトの両面をしっかりやっていくということが、この京橋においても必要だと思っています。
- デッキという話もありますが、例えば渋谷で銀座線からハチ公前に行きにくくなり、実は回遊性がなくなったのではないかとことがありますので、そういったことは気をつけていかないといけないと思っています。
- 京橋について2つのポイントが大事だと思っています。1つはスピード感で、スピード感を持って取り組んでいかなければ、どんどん時代も変わっていくので、京阪の京橋駅が担わなければいけない役割は、まずは先陣を切ってまちづくりの方向性に向けた役割をしっかり担っていくということ。
- もう1つは、ソフト面として、ライフスタイル等に貢献していくような施設を作っていかなければならないのかと思っています。今の我々の土地だけでは限界にきていますし、老朽化も進んできていますので、そのあたりを皆さんと一緒にしっかり意見を交わしながら進めていきたいと思っています。

明瀬 西日本旅客鉄道株式会社 地域まちづくり本部交通まちづくり戦略部担当部長

- ハード面の結節性・連携で申し上げますと、まちの骨格で示されている一番東側のアーバン・プロムナードの整備意義はすごく大きいと思っています。このプロムナードによって、京橋と大阪ビジネスパーク、大阪城公園、大阪公立大学といった周辺拠点が繋がりと、まちの玄関口としての「駅」と「まち」が繋がります。さらに広域で見ますと、これらが新大阪、けいはんな学研都市、関西国際空港等と繋がり、「まち」と「駅」が繋がることとなります。国際競争力を向上させるという点で、「駅」と「まち」がしっかりと繋がるような整備をすることが必要だと思います。
- また、ソフト面で申し上げますと、国際競争力という観点でお話がありましたが、方針1に書いておりますイノベーションが創出されるビジネス環境の創出という観点で、多様な人が集まって交流する場所が求められていると思いますし、私どももいろいろ考え

ているところです。そういう意味で、周辺施設が機能的に繋がり、職や住など、多様な機能がハイレベルに融合するまちづくりが望ましいのではないかと思います。

- ・最後に、土地の活用についてですが、細切れにすることなく、ある程度大きな区画で計画するということが必要だと考えております。大きな上位概念を持ちつつも、土地活用をする上では、まとまった区画が必要だと思います。

松下 大阪市高速電気軌道株式会社 都市開発事業本部広域拠点開発部長

- ・大阪で言うとキタやミナミとは違った特徴のある東側ならではの拠点になるようなまちにしていきたいというふうに考えています。まずはエリアの持っているポテンシャル、これを生かしながら、まちづくりを進めていく必要があると思います。
- ・コンセプトでコネクティブシティ京橋とあり、そのためには繋いでいく連携していくことが大事かと思っており、それによってエリア全体の価値向上に繋がっていく拠点であると考えています。特に京橋はポテンシャルも非常に高いのでそういう面が強いと感じたところです。
- ・京橋ではオンデマンドバスやパーソナルモビリティ等、新たなモビリティを活用し、周辺のOBP、大阪城公園、大阪城東部地区と、様々なエリアを物理的につなぐことで人の移動、情報の移動、これらを活発にして、にぎわいや回遊性を向上し、京橋のみならず周辺地域の魅力向上にできるだけ寄与していければと考えています。
- ・我々もサイバー空間においても事業を展開していますが、リアル空間での交通事業を中心としてそれを連携させ、幅広く繋がりを持ちながら、Osaka Metroの果たすべき役割を果たし、大阪の東の拠点として他エリアと差別化が図れるような発展をしていけるよう取り組んで参りたい。

井下 大阪地下街株式会社 理事兼施設部長

- ・地下街は、地下の公共通路を基本に店舗を併設しております。これまで継続的にリニューアルしながら、6か所の地下街で毎日100万人近い多くの方に利用いただいている施設です。また、公共通路と隣接地の建物を地下で接続させ、回遊性の向上を通じ、まちににぎわいを広げていくという役割も担っています。
- ・京橋では、京橋公園の地下に花博が開催された1990年に開業したコムズガーデンを運営しています。コムズガーデンは、老朽化も目立ってきており、万博へ向けて全面的なリニューアルを計画しています。京橋公園も再整備をされるということですので、できるだけ一体性のある居心地のよい空間整備ができればと思います。また、地域のにぎわい創出につながるよう、様々なイベント等も継続的に実施してまいります。

山岸 イオンモール株式会社 エリア開発統括部 近畿・北陸開発部部長

- ・現在、FULALIKYOBASHIという施設を暫定利用という形でいろいろな実証実験をする場所ということで開業しています。今年の3月末から4月の頭にかけて残りのフードホールを開業させていくことで一旦事業としての概ねの骨格が整い、イオンモールとして様々な実証実験をやって試していきたい。その1つは万博への協力としてどんな形でできる

か、万博で開業されるブースの中身について何か前ふりができるような場所として活用できないかなど。また地域の住民の方々または周辺の方々に対する情報発信の場として活用していきたい。そういう意味では、今までダイエー、イオンリテールの店として開業させていただいて、我々小売業としてお客様としての人の交流というのは生んできたというものがありますが、今後は情報発信をしていく中で、どういった方々が交流を求めているのか、そういったニーズを掴みながら情報発信をしていく場所として展開していきたい。

- また次なる開発については我々としても4つの方針の中の、どういった機能があれば、望ましい施設を提供できるかを検討しながら進めていきたいと思っています。京橋エリアは低層の住居が周辺にあるが、住む環境として考えた場合に若干遠慮がちになられるエリアでもあるので、人が住んでいけるようなまちづくりを中心に考えていきたいという思いもあります。
- また先ほどの話でもあった国際競争力に資するというのは具体的にはどういうものなのかということも含めて、深掘りし、その機能を導入していきたい。

真鍋 西日本電信電話株式会社 経営企画部 CRE 推進室室長

- NTT西日本のQUINTBRIDGEという言葉も資料の中でも非常に出てきており、活性化に協力をしていかなければいけないと思っています。以前は法円坂に本社がありましたが、移転して2年が経ちました。法円坂の跡地のところは、NTTのグループ会社と一体となりましてNTT都市開発がラグジュアリーホテルであるカペラホテルを誘致し、2025年のオープンをめざしております。まさにインバウンドの方にも来ていただけるような、しっかりとしたホテルを準備していきたいと考えています。
- 京橋の方は2年経っていますけれども、今はその本社機能に加えましてQUINTBRIDGEというイノベーションを起こしていけるような施設にて、部会にもご出席いただいているような企業の皆様とも各種コラボレーションをさせていただきながら、活性化にご協力をさせていただきたいし、今後もやっていきたいと思っています。

市橋 西日本電信電話株式会社 イノベーション戦略室室長（随行者）

- QUINTBRIDGEは、今年の3月末に開業して2年を迎えます。今ちょうど1年10ヶ月がたったところです。開業に当たりましては、NTTのためのイノベーションの施設ではなく、本当に社会課題を地域の住民の方あるいは地域の企業の方々と一緒に取り組んでいくと。利他と自利がありますと自利を先にするのではなくてまず利他の考えを持ってそのあとにいかにNTTのビジネスをその中で作っていけるのかというようなスタンスでまずコンセプトを作りました。というのも、東京都に比べますと大阪あるいは関西のスタートアップだと企業の数自身が少ないということと、京都・大阪・神戸に点在をしているというところでなかなかパワーを発揮できていないのではないかという課題意識からまず市場のパイをどのように作っていけるのか、そのためには多様な人に集まってもらって、アイデアとか課題が集まってくる環境っていうのを作ろうということが出発点で

- す。
- そして QUINTBRIDGE のコンセプトとして、京都大学の哲学者の出口先生が提唱されている Self as We というのをキーにおき、私の挑戦は私たちの挑戦にしていこうということを書いて会員の募集を始めました。そのコンセプトに基づいての募集ですので、東京にあるオープンイノベーション施設と大きく違いますのは、本当に敷居を低くしています。例えば会社の企業規模とか売上等は全くと問わず、こんな課題があるとか、こういうことやりたいというところだけを会員になるときに書いていただいている。そういったことが、私たちが想定していたよりも大きく響きまして、この1年10ヶ月で個人会員は1万7000人、法人会員は大学自治体含めて1200社、平均で1日350名ぐらいが毎日、この京橋の施設に来ていただいています。
 - 年間で約500回のワークショップセミナーあるいはスタートアップの方が登壇するようなプレゼンテーションの機会、1日2回は何かしらイベントが開催されるというような状況になってきて、京橋でこういうものをスタートしたときにはそもそもイノベーションの色がついている場所ではなく、渋谷でもなければ、虎ノ門でもないし、大手町でもないところで、そんなことができるのかと言われていたのですが、非常に活性化してきたというところは先ほどのコンセプトに共感いただける方が多かったというのがわかったことであります。イベントが年間で500回、1日2回あるが、このうちの7割は実は会員の方々が自らこういうことをやろうとやって持ち込んでくださっているものです。こういうまちにしていきたいとか、こんな社会課題解決したいということをどんどん持ち込んでいただいている。今この京橋に情報が集まってきているという、大きな手応えとうねりを感じています。
 - 明治大学の野澤先生も言われていたコネクティブシティで繋がるということがまず大事ですけども、その後どんなまちにしていきたいのかというところで、社会課題を解決したい、住民参加型のまちづくりみたいなものやしていきたいという方のパッションを感じており、そういった方が QUINTBRIDGE に集まってきていただいているので、本当に何かウェルビーイングが実感できるまちづくりにしようとかが進んでいて、自分たちも一緒にまちを良くしていけるまちづくりをしようとか、そういったもう一段のところをセットで提唱していくというようなことが必要だと思います。
 - もともとの出発点が下町で、渋谷やうめきたとはまた違う、ハイソな感じというよりはカオスなまちだからこそこんなことが生まれたという多様性シティみたいなところを訴える方が魅力を持って、さらにそこに共感していただける人が生まれるのではないかと思います。コンセプトづくりのところにもう一段何か欲しいなと思いました。
 - もう1点、先ほど説明したとおり課題がたくさん集まってきていますので、この課題と一緒に実証していこうとか、形にしていこうというところで、実証の場はここがあって使えるということを最初に用意しておいて、PRしていくような横の連携ができないかと思っていて、まち全体でブランディングをできればと思っています。公立大学の吉田

先生が言っておられた大きな形で支援していくといったことになるのではないかと思います。そこに公立大の学生が実装者とかプランナーとして本当に動いてくださる人たちとして参加していただけることのような、そういう仕組みづくりも期待していますし、ぜひ私たちもやっていきたいと思っています。

高梨 一般社団法人大阪ビジネスパーク協議会 運営委員長

- OBP エリアのエリマネ団体として参加しています。エリマネ団体ですので OBP 協議会に参加されている各地権者、企業様にはこの部会の内容をお伝えし、協議会の立場としても、個社の方々にも意識向上を図っていただけるよう働きかけていきたいと思っています。
- OBP の特徴といたしましては2点。1つは多機能な都市として、機能面では進化していています。もちろん名前の通りビジネス業務機能が多いのですが、その足元に広がる商業施設、ホテル、文化施設ホール、直近では美術館なども開業されましたし、そういう多機能なものがあります。特にビジネスにつきましては海外事業展開されている企業がございますので、そういう意味では、先ほどの国際競争力の1つの担い手としての企業がいると考えています。
- もう1つは、嘉名先生の言われた脱炭素グリーンイノベーションと絡みますけれども、公開空地や建築協定といった外部環境の豊かさという面で、他の業務エリアに比べますと非常に違いがあり、ビジネス街として外部環境の豊かさを上手く活用していく必要があるエリアだと認識しております。
- 今後の展開としては、他エリアとの連携ということで、今回のこの将来像の中にもある、1つは機能面でのネットワークの強化ということで、具体的な仕組みとしては、周辺にあります大阪公立大学それから京橋エリアの企業と、例えばICTを使った社会実験などの連携をさせていただき OBP の中で事業展開を実証実験していただくことや、SNSなどを活用した情報の共有による利用促進を図っていく等も含めた、今後の機能面でのネットワークの強化というものを図っていければと思います。
- ハード面では3つのプロムナードを作るということで、OBP がちょうどその京橋駅エリアと、大阪城公園とか大阪公立大学を結ぶ位置にありますので、OBP 協議会の中での利用・活用の仕方、あるいは各個社の施設整備の中でこのプロムナードを1つ大きな骨格の中に乗せて展開していくような形を、この協議会の中でも促進していければと思っています。
- エリマネ団体ですので、各地権者企業様への意識向上を図って参りますけど、エリマネ団体としての活動もより強化していきたいと思っています。特に京橋エリアにつきましては、将来的にはエリアマネジメント団体なども構成されていくでしょうし、QUINTBRIDGE は個社でありますけれど、いろんな企業やあるいは団体が来られる1つの核になっているので、エリアマネジメント団体として、連携していくことも今後考えていきたいと思っています。

- ・ こういったことを通して、これからうめきたや中之島などもでき上がっていきますが、大阪の他のエリアとの差別化を図り、最終的にはこの大阪城公園周辺のサークルの1つの核に、OBPのエリアがなっていければと考えています。

柴山 公立大学法人大阪 事務局企画部長

- ・ 大学は2025年の秋に、森之宮新キャンパス、そして28年度には1.5期開発としてキャンパス整備を進めているところです。今後約6000人の学生が森之宮を中心に活動するということで京橋についても単なる通学経路というだけではなくて、重要な拠点として連携していく必要があるのではないかと考えております。
- ・ その中で、13ページのコンセプトにあるようにコネクティブというところ、これは状態としましてはコネクトをコネクティッドという形にしていかないと、まちとして形成していけないのではないかと考えています。21ページにも人と人が繋がるというところの記載がありますが、先ほど野澤先生やNTTの市橋様からもコメントありましたように、この地区がどうなりたいか、またそのためにどのような人と、どのような人がどう繋がっていくのかというところについてこの部会で考えて行動に移していく必要があるのではないかと思います。例えば大学法人の取組の例としまして、ベンチャーやスタートアップの創出を加速させるための取組、新体制の構築等を合わせて進めておるところでございます。
- ・ その中で、28年度に情報学研究科がこの森之宮の方に移転してくることを踏まえまして、OBPの情報系の企業群、または京橋のQUINTBRIDGEの施設等、周辺の実証フィールドと合わせてどうコネクトしていくかという方法について考えていきたいと思っています。また各キャンパスで実施しているディープテックの取り組みも考えますと、この地区の東側に連担するものづくり産業、さらには東のけいはんな地区の知識とどのようにコネクトしていくかという部分を考えていく必要があると思っています。ベンチャースタートアップだけでなく大学としても、これからは皆様のお力をお借りしまして、この大阪の東の発展に取り組んでいきたいと思っていますので、ご協力よろしくお願いいたします。

上溝 大阪府・大阪市 大阪都市計画局計画推進室長

- ・ 私からは3点ほど発言させていただきます。
- ・ 1点目が、先ほどから出ている大阪城東部地区のまちづくりについて、こちらは大阪公立大学のキャンパスと大阪メトロの新駅を核としたまちづくりを進めていこうとしている中で、すでにこれだけの集積がある京橋エリアとの連携ということが非常に大事になると思いますので、ぜひとも一体的な発展を目指して、お互いに頑張っていきたいと思っています。
- ・ 2点目が、先ほど嘉名先生からもご発言がありました防災の件です。すでに駅、商業・業務機能これだけの集積があり多くの人が集まるエリアですので、今回のまちづくりの方向性の中ではあまりそのあたりが触れられてなかったという印象を持っていますので、夏にまとめられるまちづくり方針の中には、そのあたりも意識した表現を入れていただ

く方がよいかと思えます。今回の京橋部会が立ち上がったということをも1つの契機にして、例えば帰宅困難者対策対応、これは各企業や、鉄道事業者の方で、個別にも対応されているところかもしれませんが、緊急整備地域の部会がある多くのエリアで、エリアとしての対応をまとめられているので、1つのやり方として、今後検討していただけたらと思います。

- 最後の3点目、大阪都市計画局ではグランドデザイン推進の一環として、学研都市線沿線のまちづくりの協議会を作ってJR、沿線の市、府の関係部局と一緒にやらせていただいています。普通の開発であれば1つのエリア、1つの駅の周辺という考え方で、まちづくりを考えることが多いですけども、それだけでなく、少し広い視野でまちづくりを考えようということで、複数の駅、複数のエリア、複数の自治体が連携したまちづくりというものを考えていこうというもので新たな試み挑戦だと思っています。何かいいものがないかということで取り組んでおり、この京橋と先ほど推進機構さんの方からも説明ありましたけいはんな学研都市とその中間の部分になるわけですが、そのまちづくりについて沿線市と一緒に考えているところです。今回のまちづくりの方向性の中でもですね、周辺エリアへのフィードバックとかコネクティブというところは、非常にたくさん意識して書かれています、やはり大阪市として、市域だけではなく、大阪城周辺・京橋周辺だけではなくて、もう少し広い視野で京橋のまちづくりを考えていただきたいです。今後、沿線のまちづくりの中では、この京橋の活力をいかに取り込んでいくのかということも考えていきたいと思っていますので、この京橋のまちづくりの方針の中でも、ぜひ盛り込んでいただけたらなと思います。グランドデザインの中でも地域の活力を周辺に波及させて、府域全体で発展していくというところを目指していますので、是非ともそこは京橋と沿線と、JRだけでなく京阪さんとも沿線のまちづくりについて議論できたらというふうに思っているところですので、ぜひもう少し広い観点で、今後、大阪市の東の玄関口の京橋ですので、単なる大阪市の拠点じゃなくて、府域の中の成長を引っ張る拠点として、もう少し広い視野でとらえていただければよいのではないかと思います。

平野 大阪市建設局企画部長

- 建設局は、道路、公園、下水といったインフラ施設の整備を担っていますので、コメントは少しハードに関わるものになります。資料2の24、25ページで、まちづくりの方向性が示されましたが、まちの骨格をつくっていくための整備イメージをもう少し具体化していかなければならないと思いますので、各インフラの具体的な機能や位置付けをしっかりと検討した上で進めていきたいと思っています。
- また、整備の計画にあたっては、この京橋駅周辺の非常に難しい立体的な空間の中で、どの階層でどのような整備を行っていくのか、また民間事業者の皆様からもご指摘がありましたように、時間軸も非常に大事だと認識していますので、どういう段階でどのような整備を進めていくのかといったことを、この夏にまちづくり方針がまとめられると

ということですので、それまでの短い時間の中で集中的にやっていきたいと思っています。

山野 大阪市建設局街路担当部長

- ・ 建設局はハード整備をやっていきますので、その内容について資料2の5ページを見ていただくと、京橋駅周辺地域のところでここにJR片町線東西線が地上を東西に走行しており、歩行者デッキで横断することはできますが、南北を分断する要因にもなっています。この地域のまちづくりを進めていくということであれば、資料にも書かれているJR片町線東西線連立事業を今は事業休止となっていますが、この連立事業もこのまちづくりとあわせて検討を進めていく必要があると思っています。
- ・ また赤枠で囲われているエリアの東側に、南北方向の軸になる4車線で計画された都市計画道路豊里矢田線があります。現在事業中になっていますが、この路線が整備されますと南側の大阪城東部地区から、国道1号から北側へいくと少し未整備のところもありますが、それを超えると、淀川を渡って最終的には新大阪まで繋がっていく非常に重要な路線であり、この路線を使うことでこの京橋の発展が期待されます。
- ・ しかし、現状はJR片町線と踏切で平面交差しており、この踏切が除却できれば駅周辺を利用される方々の利便性が非常に高まるものでありますが、現在は踏切で遮断されている状況です。今後、この地域のまちづくりの中で、南北の豊里矢田線の広域ネットワーク道路が非常に大きな役割を担ってくると思いますので、建設局としてもまちづくりとあわせて、これらのインフラ整備の検討をしっかりと進めていきたいと考えています。

平原 大阪市都市整備局市街地整備部長

- ・ 市街地整備部というのは、土地区画整理事業など、面的なまちづくりを所掌しています。先ほど上溝室長からも意見がありましたように、広がりを持ってものを見るという意見には大賛成です。京橋駅周辺を点として見るのではなく、大阪城東部や、OBP、天満橋も含めた、面的な広がりを持ったまちづくりという観点で見て、その中で機能更新、機能の再配置というところまで必要になるのであれば、私達のこれまで培ってきたノウハウがお役に立てるのではないかと思います。皆様のご意見をいただきながら、広がりを持った面的なまちづくりを考えていけたらと思います。

土居 大阪市都島区副区長

- ・ 都島区の区域は資料2の25、26ページで寝屋川から北側の京橋駅の周辺です。そして、まちの骨格のセントラルプロムナードの南側から北側に抜けた上の方に京橋公園と書かれているところですが、先ほど地下街株式会社の井下さんの話にありましたコムズガーデンがあり、その上側が京橋公園であり、建設局により2025年4月の大阪・関西万博の開催に向けて、京橋公園のリニューアル整備を進めていかれると聞いております。これをひとつの機会に都市空間に着目して人の動線ができることを何か考えていければと思っています。
- ・ もう1つは上溝室長から話がありましたけども、やはり災害が起こった時に帰宅困難者が京橋駅のまわりにたくさん出たときにどうするのか、全体として帰宅困難者を受け入

れるのかということも人の動線とあわせて考えていただければと思います。

角田 大阪市城東区副区長

- ・ 区役所というのは基礎自治体の最前線ですので、ハード面は話しにくい部分があります。一方で、人ということでイオンさま、NTT西日本さまが申し上げておられたように、つながり、人と人がどうやって関わっていくのかというようなところは、非常に大事なところと思っています。
- ・ 城東区は寝屋川から上ということで、都心居住に位置付けられています。地域と大学生、ビジネスマンにとってよりよい地域になって活力が出ていくようなスキームが取れたらいいなと思います。

岩崎 大阪市中央区副区長

- ・ 区役所の立場から2点ほど述べさせていただきます。
- ・ 1つは、先ほどから話が出ていますように、京橋の駅がターミナルであるということ、そのすぐ南にビジネスが集積しているビジネスパークが存在しているということもあって、今回の能登半島地震では大きな問題としてクローズアップされませんでした。都市部でそのような大きな災害が起きたときには、帰宅困難者の問題というのは非常にクローズアップされるのではないかなと思っています。やはりまちづくりを進めていく中では、そういった観点からの対策をどう取っていくのかというところは非常に大事になってくるのではないかなと感じております。
- ・ もう1つは、本来、区役所は住民視点でいろいろなものを考えていかなければいけない立場ではありますが、一方で中央区というのは、区の特性として非常に大きなにぎわいを持った地域特性というのがありますので、この京橋地域から、そのすぐ南にある大阪城公園、谷町エリア、そこから船場、ミナミというふうな人の回遊性といったところも、まちづくりを考えていく中の、1つコンセプトに据えていただきたいなというふうに思っています。ハード的な部分で人の回遊性を担保していくということはなかなかあまり思い浮かばないですけれども、一方でソフトコンテンツとして、それぞれのポイントポイントに魅力あるコンテンツを配置することによって、人の流れができていくのではないかなというふうに思います。そういう観点からの検討も、この中で進めていただければなと感じました。

玉置 国土交通省 近畿地方整備局都市整備課長

- ・ 京橋のまちづくりの中で、今後の検討の進め方にもよると思いますが、まちづくりの方針に基づく色々な取り組みに対して、先ほど吉田先生からもお話がありましたけど、官民連携のエリアプラットフォームの構築とか、国の方でも色々な支援制度もありますので活用を検討しご相談いただければと思います。

酒井 国土交通省 近畿運輸局交通企画課長

- ・ 本日の意見の中ではおそらく出ていなかったと思いますが、コネクティブのまちづくりということで、ぜひバリアフリーという要素を検討いただけるとありがたい。

- ・周遊性を高めて、まちの機能を活性化させるということにあたっては、個々の事業者さんがそれぞれバリアフリールートを確認し取り組まれていると思います。1つ1つではバリアフリーが実現できているけれども、まち全体で見るとなかなか周遊性が高まらないといったこともあるので、バリアフリーという観点は非常に大事な部分になってきます。
- ・特にこのエリアは大阪城公園があり、外国人観光客の方、大きな手荷物とかスーツケースを持たれている方、ベビーカーでくる方も多く来られるエリアかと思います。
- ・周遊性やにぎわいを高めるという意味では、このバリアフリーという視点は大変重要になってくると思いますし、1度でき上がった後にバリアフリーをやろうとすると非常に労力がかかるので、計画段階から検討に組み込んでいただければと思います。

真田 内閣府 地方創生推進事務局参事官

- ・国際競争力強化の観点から意見を申し上げます。資料では、この京橋を国際競争力に資する拠点としていくというような話であり、例えば、資料2の20ページには居住地とかビジネス環境とかをつなぐ機能や仕組みを作っていくと書かれていますけれども、そのつながれる1つ1つ、例えば居住地を見て、現状の居住地の状況が国際水準の観点から見て十分なのか、シンガポールや上海ではなくこの京橋にアジアの拠点を持っていきたいというふうになれば、家族も一緒に連れてくると思いますし、そうすると居住地の水準や提供される医療、子供に対する教育などのサービスがどれだけ提供されているのかという観点も見ていく必要があります、そこが評価をされるのではないかと感じます。
- ・そうすると、国際的に競争できるレベルのものが、現状この京橋エリアにあるのかどうかという観点で評価をして、今後、その強化していかなければならないものは何かということ、居住地とか、オフィス環境とか、様々な観点からチェックし、それで足りないものを強化していくという内容をとりまとめて、まちづくり方針に盛り込んでいく必要があるのではないかと考えています。
- ・資料1を見ると、取りまとめた方針を活用して、民間都市開発を促していくというプロセスフローになっています。そういう意味で、こういう機能を京橋に投資してほしい、作ってほしいということを民間事業者の皆様を示していくことが必要ですし、国際的水準から見てこういう機能がこの地区には必要だということを世の中に示していくような、そのような取りまとめのまちづくりの方針にしていくのがよいのかなと感じました。

6. 閉会

部会長：西江 大阪市計画調整局開発調整部長

- ・ありがとうございました。これで皆様からご意見を頂戴いたしました。何か補足的にご意見がありませんか。ありがとうございました。
- ・本日は皆様から貴重なご意見をたくさんいただきありがとうございました。

- ・ 本日いただいたご意見を踏まえながら今後検討を進め、目標とします夏までに、まちづくり方針案として取りまとめていきたいと思ひます。引き続きのご協力をよろしくお願ひいたします。
- ・ それでは、事務局に戻します。

事務局

- ・ 皆様ありがとうございました。以上をもちまして、本日の議事はすべて終了となります。

以上